



御神船

「御神船」とは、伊達藩の時代、物資流通や大漁祈願の海渡りに活躍した船が称賛されて「御神船」と呼ばれるようになりました。

2022
(令和4年)
7
月号

不許複製：禁無断転載・引用

Vol.199 仙水グループ広報

仙台水産ホームページ www.sendaisuisan.co.jp

商業捕鯨 / 生ニタリ鯨入荷で鯨食PR 鮮度抜群！多くの買受人でセリが活気づく

仙台水産は7月12日早朝、仙台卸売市場で三陸沖の商業捕鯨で限定生産されて仙台港に陸揚げされた生ニタリ鯨の入荷を受け、鯨食をPRするイベントを開きました。



▲鮮度抜群の鯨肉にセリが大いに活気づいた

当日上場したのは生ニタリ鯨の尾肉540キと赤肉1・6ト。生ニタリ鯨は2日前、仙台港に入港した共同船舶（所英樹社長）の捕鯨母船「日新丸」の生産品で今年初めての生ニタリ（通算3回目）。通常、日新丸は沖合で長期操業するため冷凍品しか生産してませんが3年前から冷凍しない生のままの製品化にも取り組んでいます。

セリ前には日本捕鯨協会（山村和夫理事長）と協力し尾肉と赤肉のブロックや料理の刺身、握りなどを展示、ノボリとパネルで生鯨肉のおいしさや優れた栄養価をアピールしました。当日も多数のメディアが取材に訪れ、テレビや新聞で大きく取り上げていただきました。セリ落された鯨肉は当日夕方までに県内の量販店や小売店に並び消費者に届けられました。

仙台水産グループのEC事業「仙台海鮮市場」で生ニタリ鯨セットを通販したところ数日で完売するなど好調でした。かつての国民食であった鯨肉。皆さん、食べて鯨食文化を継承しましょう！

「さかなで元気」テーマに多彩な提案

仙水グループ提案会『フレッシュ食の祭典』（予告）

仙水グループ仙台水産は9月7日（水）、仙台卸商センター産業見本市会館・サンフェスタ（仙台市若林区）で生鮮合同提案会「フレッシュ食の祭典」を開催します。

仙水グループの一大イベント「フレッシュ食の祭典」。コロナ禍で3年ぶりになりますが、感染予防に細心の注意を払い開催します。

「さかなで元気～豊かな『食』を提供します～」をテーマに生鮮4品（水産、青果、精肉、惣菜・日配）を出展メーカー様とともに多彩なメニューで提案します。グループを挙げて取り組む市場分析、異業種とのコラボや新技術導入、商品開発、最近のトレンド「コト

消費」など総合的に提案します。コロナ感染防止のため来場は招待事前登録制とし、国のガイドラインに沿って会場内の密を避け来場時間の調整を行います。

実行委員長は仙台水産の伊藤真専務取締役。（4面にあさつ）

仙水グループ各社の皆さん、コロナ感染対策に細心の注意を払いながら3年ぶりの提案会大成功に向け、グループの総力を挙げて臨みましょう。



▲厳選した生鮮4品を多彩なメニューで提案する



仙台丸水配送
市場部 課長
橋本 勝さん

昨年の秋、10数年ぶりに趣味を復活したら、今は毎週通うほどハマっています。前と色々情報が変わっているので勉強しながら頑張っています。



仙台水産
冷凍部 冷凍課
小野寺 円城さん

生活の一部になっていくプロ野球観戦。10月のCSシリーズに向けて仕事を頑張っています。ちなみに私は大の巨人ファン。目指せ優勝！日本一！



仙台宮水
営業1部
藤原 彩花さん

入社して半年。少しずつ仕事に慣れてきました。そろそろ新人気分でもいられないので、できることをどんどん増やしていきたいと思っています。



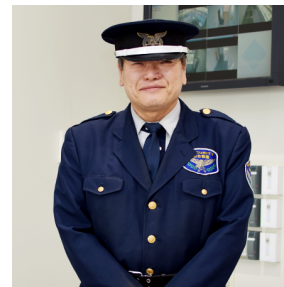
仙台丸水配送
市場部 課長
鈴木 幸一さん

季節は夏。皆様、体調はいかがでしょうか。私の体調維持の秘訣はおいしい肴でお酒をいただくことです。時々、ムツシユの料理参考にしてます。



桃浦かき生産者合同会社
生産部
平塚 雄介さん

入社して1年が経ちました。勉強の毎日ですが頼もしい先輩方に支えられています。休日などは趣味の音楽でモチベーションを上げています。



仙台商産
警備員
安田 元臣さん

自衛隊定年後、早や7年。前職で機関長から言われた初心を思い出ししっかりと挨拶し、周囲をよく観察して異常の早期発見に努めています。

仙台水産社員が桃浦合同会社で産地研修

仙台水産は6月中旬から7月14日までの1か月間、桃浦かき生産者合同会社に社員を派遣支援する「産地研修」を行いました。

グループ研修の一環で、桃浦合同会社の水揚げ目標実現に向けたマンパワー不足を補助と取り組みを始めた。研修は仙台水産の各部長をリーダーに4〜5人のチームが、連日の暑さ対策を取りながら汗だくになって作業支援を行いました。取材時の7月4日は、



▲青木部長(中央)らが研修で汗を流した

加工食品部の青木部長以下4人が早朝からカキの種はさみ作業を行っていました。青木部長は「暑さのなか作業はきついですが、グループの一員として生産現場の苦労を知り、今後の仕事に活かさなければ。目標必達。一致団結して頑張る」と話していました。

農水省の武田課長を講師に仙水グループ研修会

仙水グループは7月5日、農林水産省大臣官房新事業・食品産業部食品流通課長の武田祐紀氏を講師に仙水グループ研修会を開きました。

冒頭、主催者あいさつで仙台商産の島貫文好会長は「グループの経営者を含む管理職以上の103人がWEB視聴で参加している。武田課長は先の市場法改正でらつ腕を振るわれた方。グループの皆様方の疑問を解くカギになればと考える」と話しました。

講師の武田課長は「卸



▲経営陣に講義する武田課長(右)

売市場の課題」と題して、食料の安定供給や持続可能性、物流・標準化とデジタル、農林水産物・食品輸出、卸売市場法改正とコロナウイルス、卸売市場の動きへの評価について資料に基づきわかりやすく講義され、大所高所からの知見を参加者に賜りました。

東北電子生徒が職場見学

7月12日早朝、東北電子専門学校
の3年生7人が就活で市場を訪れ、グ
ループ仲卸や各社を見学しました。

将来の担い手として期待される生徒
たちが就職活動の一環で訪れたもの
で、市場で自分自身の適性を探ろうと
興味津々。仲卸の売場や施設、会議室
での市場概要説明や、グループ11社
の担当者から説明を受けました。



▲イーネットでは佐藤社長(中央)から説明を受ける

宮城水産生徒が職場体験

6月28日早朝、宮城県水産高等学校
3年生21人が職場見学に訪れました。

生徒たちが就職活動の一環として訪れ
たもので自分自身の適性を探ろうと早朝
の鮮魚売場やセリの様子、グループ仲卸
でのマグロの解体などを見学。最後に会
議室で近年入社の子校OB4人が仕事の
やりがいなどを話していました。



▲仲卸の仙台宮水ではマグロ解体を見学した

各地域、時節に合わせイベント企画 市場発！旬の生スルメイカをPR

仙台水産は6月30日早朝、仙台卸売市場で本格的な入荷が続く旬の生
スルメイカを様々なメニュー提案でPRするイベントを開きました。

当日入荷したのは北陸から青森の日本海で漁獲されたおよそ5トン・
1000ケース。今シーズンは例年より潤沢な水揚げが続いています。会場
では茹でイカや唐揚げ、イカ大根、鉄板焼きBBQなどおすすめメニューで
紹介し、買受人らの関心を集めました。遠海部の本郷淳次長は「入荷が
順調で昨年比約1.5倍
です。イカ自体はやわら
かいので煮物や焼き物、
揚げ物など、様々な料理
で楽しんでください」と
話しています。当日は、
在仙メディアも多数取材
に訪れ、昼のテレビ
ニュースや新聞で取り上
げていただきました。



▲本格入荷の旬の生スルメイカを様々な料理で提案した

2022年 お盆商戦の提案ポイント

「お盆帰省客へのもてなしは？」仙台水産営業企画部は6月28日から
3回、リモートも入れ、お盆の魚介類に関する消費者動向アンケート調査
結果を発表しました。発表会にはグループ各社の営業担当者ら延べ86人
が出席し「子供を含む帰省客が増え、ごちそう需要が見込まれる。ダント
ツ人気は刺身次いで寿司。マグロ、サーモン、イカ、ホタテなどが人気魚種。
猛暑が予想され+(プラス)水産物の夏メニュー対策が必要。天候を考えホッ
トプレート鉄板焼きや子
供が好きなメニューが
チャンス」などと提案ポ
イントが示されました。

また、中食・外食やテ
イクアウト、ウイズコロ
ナの意識調査など多岐に
わたり発表されました。

(今回のモニター回答
者数：280人)



▲各社営業担当が盆商戦前にモニター動向を把握した

今月の旬のお魚 No.40

ホヤ



▲姿 形から「海のパイナップル」とも称される

宮城が誇る海の幸「ホヤ」。今シーズンは4年物の大サイズを中心に
出荷されており、昨年に引き続きホヤ好きにはうれしい状況になっています。
今年3月ごろから生育も順調で、甘味と旨味も増えています。ホヤには、
ビタミンやミネラルなどの栄養が含まれ、特に鉄分はホヤ1つで1日に必
要な量の1/3を満たすことができます。またコラーゲンの生成や味覚形成
に関わる亜鉛も豊富で、グリコーゲンには疲労の回復や集中力を高める効
果があります。そして、ホヤ由来のプラズマローゲンには、脳に効率的な
働きをし認知症に効果があると論文で発表されています。

今期は身入りも良く旨味もたっぷりなので、バーベキューにおすすめな
ホヤをたくさん紹介しましょう！

8月度メディア情報 《番組出演》8/12(金)17:20～ミヤギテレビ OH! バンデス「簡単ごちそう！マグロとしし唐のレア串焼き」
《雑誌掲載》7/28(木)発売 情報誌りらく8月号「ふっくら香る！太刀魚のレモンバタームニエル」
※詳しくは仙台水産営業企画部まで

ゆりあげ港朝市でホヤ祭り

7月17日早朝、名取市閑上のゆりあげ港朝市で恒例の「ホヤ祭り」(協賛: 仙台水産)が開かれ、大勢の買い物客や家族連れで賑わいました。

会場で当日未明、石巻で水揚げされたホヤ約1トンが1回500円・トレー盛り放題で来場者に提供されました。

朝市名物行事とあって仙台から来たという女性は「ホヤ大好き。毎年、夫と来ている。残りは近所に配ったり冷凍保存して食べる」と話し、すばらしい積み上げをしていました。



▲トレー一杯にホヤを積み上げる来場者

若手社員ビジネスマナー研修

仙台水産は7月12日、七十七銀行中央市場支店副長の千葉理氏に講師をお願いし、入社1~2年の若手社員9人を対象にビジネスマナー研修会を開きました。冒頭、石森克文副社長は「当グループは社員の成長が会社の成長と考えている。研修は自分自身が成長するため、社会人としてレベルを上げるためと捉え学んでほしい」とあいさつしました。受講者らは改めてビジネスマナーの重要性を再認識していました。



▲講師(左)からビジネスマナーを学ぶ受講生

お悔やみ

㈱東海 顧問 大庭 武彦氏
7月5日ご逝去 74歳

仙台水産専務取締役、㈱東海会長・社長、仙台海産物仲卸協同組合理事長を努められ、仙水グループの躍進に貢献していただきました。

ご冥福をお祈りいたします

「いい、コト提案」で新たな発見、感動を 仙水グループ提案会実行委員長・伊藤専務に聞く

仙水グループ提案会は、新型コロナ感染拡大の影響で過去2年やむなく中止されていましたが、各方面で経済活動再開の動きが活発化し始めたことを受け今年には感染予防を徹底し3年ぶり再開の運びとなりました。以下、実行委員長の仙台水産専務取締役・伊藤真営業本部長からあいさつ文を寄稿していただきました。



伊藤 真実行委員長

＝あいさつ＝ 9月7日(水)、3年ぶりとなる仙水グループ提案会「フレッシュ食の祭典」を卸町のサンフェスタで開催することになりました。

テーマは「さかなで元気～豊かな『食』を提供します～」に決定しました。

今回は、従来2月に開催していた業務提案会と併せて行いますので大規模となります。多くのお客様やメーカー・荷主様も待ちに待った提案会の開催であり、大変楽しみにしております。仙水グループ各社はこれに応えるべく誠心誠意、手抜きのないように準備を進めてください。

今年は、私たちを取り巻く環境がコロナ禍の3年で大きく変化しています。消費動向は環境への配慮、健康志向に加えネット販売が拡大しました。水産業界においては国内鮮魚の漁獲不振、人件費・光熱費・資材のコスト増、海外の需要増・円安による原料価格の高騰など、大変厳しい状況が続いております。このような中で「いい、コト提案」と題し、価格だけでなく新たな発見と感動を提供する提案を行ってまいります。

国のガイドラインに従ってコロナ感染防止対策をしっかり実施し、ご来場の皆様に安心してご覧いただけるよう配慮してまいります。グループ各社様のご協力をよろしくお願いいたします。



▲前回、19年(令和元年)9月開催の提案会会場

コンプライアンス推進室から No.27

夏場の運転は適度な緊張感と早めの休憩

夏場の運転は暑さが疲労につながり事故のリスクが高まります。眠気や疲労を感じる前に早めの休憩と十分な休養をとり、適度な緊張感を持って運転を。ドライブや旅行は余裕のある計画とゆとりある運転を。生活道路では子供や高齢者の動静に細心の注意を払った運転の励行を。
※7月21日(木)～8月20日(土)までの間、夏の交通事故防止運動展開中!

常日ごろから「安全運転5則」の励行を

「安全運転5則」とは、①安全運転速度を必ず守る②カーブの手前ではスピードを落とす③交差点では必ず安全を確認する④一時停止で横断歩行者の安全を守る⑤飲酒運転は絶対しない、ことを指します。※職域では、安全運転管理を徹底し、過労運転や漫然運転にならない注意喚起と指導を。特に横断歩道付近に歩行者がいる場合の一時停止などの励行を従業員に徹底しましょう。



▲厳禁! 居眠り運転